書き抜き読書ノート 466	2010 年 1 月 7 日

正岡子規著「歌よみに与ふる書」岩波文庫、岩波書店 1955 年 2 月 25 日刊を読む

歌よみに与ふる書

１．外国の文学思想を輸入すべしといふ事、外国の文学を剽窃せよといふにあらず。剽窃にあらずして輸入する事、歌人の腕次第なり。外国文学より得たる思想にても、日本歌人の脳中に入りて、それが歌となりて再び出づる時は、その思想は日本化せられをらざるべからず。既に日本化せられたる者は日本の思想なり。天真の桜花の、人造の薔薇のといふ譬喩はかたはらいたし。桜花をのみ無上にありがたがりて、外の花の美を知らぬ人とは、共に美術文学を語りがたし。

P68

２．歌は世道人心に関係ある故善きにあらず。世道人心に関する歌にて善きもあり悪きもあり。歌は花月を弄びたるがために悪きにあらず。花月を弄びたる歌にて善きもあり悪きもあり。万葉の中には「田子の浦ゆうちいでて見れば真白にぞ不尽の高嶺に雪はふりける」「わかの浦に汐満ちくれば潟をなみ蘆辺をさしてたづ鳴きわたる」などといふ歌ありて、人も名歌とし、われらも爾か思へり。されどこれらは世道人心に何らの関係もなきなり。善を勧め悪を懲らし、人を教へ人を導くは道歌に如く者あるまじ。されど道歌なる者は総じてつまらぬ者なり。

３．また『万葉集』を評して「歌は国家治教の道なるにより、当時の人は思のままを述べたる者なり」などといへるは一文章の内既に撞著あり。国家治教とかを目的として歌詠まんには、思のままには詠まれぬ訳なり。思のままに歌詠みたらんには、国家治教などいへる事に関係なき歌も出来る訳なり。実にや万葉時代の人は、思のままを詠みたれば、国家治教などとは似てもつかぬ歌を多く詠みいでたるなり。

４．一般にいへば、歌は倫理的善悪の外に立つ処に妙味はあるなり。俗世間の渦巻く塵を雲の上で見てをる処に妙味はあるなり。倫理は徒に善を勧め徒に悪を懲らす傍にありて、歌は善とも悪ともいはず、ただかくの如く愉快にかくの如く平和なる場所あることを黙示するなり。世間は名利に趨り煩悩に苦しめられ、掌大の土地の上に気違ひの如く狂ひまはるを、歌人は独りこれを余所に見て花に遊び月に戯れ、無限の天地に清浄の空気を吸ひをるなり。彼俗人だちが歌を善悪の間、俗界の中に求むるはそもそも誤れり。(四月二日)

P68 ～ 70

５．美に簡単なる美あり、複雑なる美あり。世の文学者あるいは複雑のみを以て美となす。われら取らず。人あるいはわれらを以て複雑の美をのみ好むと為(な)す。これ誤解なり。われらは簡単の美をも好み複雑の美をも好む。しかれども簡単の美を詠みたる歌は、複雑の美を詠みたる歌の如く、多く出来ざる事は数において明(あきらか)なり。例へばここに十箇の材料ありとせんに、これを一首に一箇づつ用ゐて歌を作りなば十首を得るのみなれど、二箇づつを用うれば九十首を得べく、三箇づつを用うれば九百首を得べく、四箇づつを用うれば九千首を得べき割合なり。かつ簡単なる美には趣味の少き物を詠むに不可なれども、複雑なる者には趣味の少き物も、趣味多き物と配合して用ゐ得る場合多し。また趣味のなき者とある者とを、ことさらに並べて反映せしむる事もあるべし。かたがた以て複雑的の者は多く出来得べく、簡単的の者は多く出来得べからざる理なり。しかるに和歌なる者は、千年来常に簡単の美をのみ現さんと務めたるを以て、終(つい)に重複また重複、陳腐また陳腐となりをはりたり。(これ歌の陳腐に流れたる一大原因なり)

P71

[コメント]

表現の自由、自由自在とはこのようなことを言うのであろう。正岡子規の芸術論。

－ 2010 年 1 月 7 日　林明夫記－